

# 翻刻『大坂川魚問屋文書』

天理大学

佐藤 敏江

中之島図書館

山田 瑞穂・北川 敬子

中央図書館

小笠原 弘之・苗村 昌世・灘井 雅人

三島 美幸・八木 美恵

はじめに

『大坂川魚問屋文書』は、大阪京橋の川魚問屋、備前屋梶原久右衛門家に伝わった文書群である。幕末を中心として、江戸期の京橋川魚市場、明治期の川魚商社についての貴重な資料となっている。今回はその中から、「京橋市場古来書」と「問屋定」を翻刻する。

## (一) 京橋市場古来書

原資料は大阪府立中之島図書館蔵(大和銀/九・七)。二十七×二十一cm、表・裏表紙各一、本文六十四丁半。



京橋市場古来書・表紙

慶長元年(一五九六)に大坂取締の小出播磨守秀政が、京橋の鮒市場で川魚を売買している者五十五名の内、五名を年寄に任命して市場での魚の吟味を命じ、慶長三年(一五九八)に「諸役御免」の特権を与えたのが、京橋川魚市場の始まりである。その後、大坂城の責任者の変更がある中でも、京橋鮒市場には大坂城の川魚・沖魚の肴御用と「諸役御免」の特権が継続して与えられていたが、大坂の街が城の西方に拡大するに伴って需要が増大する中、元文四年(一七三九)に取扱商品をめぐって生魚を扱う雑喉場市場との争論が勃発する。雑喉場市場で川魚を取扱うようになり、川魚が京橋市場まで届かなくなったため、困窮した川魚問屋五名が代表となり、美濃屋七兵衛と佐野屋平兵衛の二人を町奉行に訴えた。町奉行は雑喉場市場における鯉・鮒・鰻の三品の売買禁止を命じたが、その後も雑喉場での川魚取引がなくなることはなく、寛保元年(一七四一)に京橋川魚市場は再度訴訟を起こした。本冊はその時の訴訟文の控である。大坂の経済の中心が大坂城周辺から船場や天満などに広がっていく中で、既得権を守ろうとする京橋川魚市場と、利便性が高い場所に出荷したい漁師に支えられた雑喉場市場の争論の中に、市場経済の原理が見いだせる。

## (二) 問屋定

原資料は大阪府立中之島図書館蔵（大和銀／九一三）二一七×二十一㎝、表・裏表紙各一、本文二十丁半。



問屋定・表紙

京橋川魚市場は、寛保元年（一七四一）五月に鯉・鮒・鰻の川魚三品の専売について奉行所から確約を得た。本書は、これを機会に、問屋五軒（鮒屋与右衛門・鮒屋七左衛門・鮒屋吉右衛門・鮒屋快順・鮒屋長兵衛）で制定した問屋仲間の定書。

## 参考

「大阪府立中之島図書館所蔵 大和銀文庫目録」（大阪府立中之島図書館編 公益信託大和銀文庫基金 二〇〇四年）

「大阪府漁業史」（大阪府漁業史編さん協議会編 大阪府漁業史編さん協議会 一九九七年）

「資料大阪水産物流通史」（大阪水産物流通史研究会編著 三一書房 一九七一年） ほか

## 凡例

- ・ 原本の忠実な翻刻を原則とし、旧漢字はそのまま表記した。
- ・ 異体字は標準の字体に改めた。但し方（より）はそのままとした。
- ・ かなの古体・変体は原則として現行の平かなを使用した。但し、江（え）・与（と）・者（は）・茂（も）などの慣用字は、原本のままとし小字で表記した。
- ・ 反復記号「ヽ」「ゝ」「ゝ」「ゝ」等は原本の通りに表記した。
- ・ 追筆等は本文中に繰り込み、書き損じ等特にその必要を認めない場合は省略した。
- ・ 解読不可能の字は□で示し、誤字・脱字・衍字などは原本のまま翻刻し（カ）（ママ）と傍注した。
- ・ 注記は（注記）「本文」と表記したが、貼紙が複雑になっている場合は、該当の部分を□で囲み次の様に表記した。（貼紙）

・	・	・
---	---	---
- ・ 貼紙が複数の場合、下から順次丸付数字①②③で表示した。また、部分的に貼紙修正されている場合は「」で補記した。貼紙の順番を推定した場合も「」で表示した。

京橋市場古來書

〔表紙紙〕辛寛保元歲

京橋  
市場 古來書

〔貼紙〕  
元和元年方式百三年二成  
文化十四年迄

西五月廿一日

一 京橋北詰鮒市場之儀ハ慶長元丙申年於伏見之御城御数奇屋に御茶御興行之砌り 御大名  
様方御振舞御座被為 成候節御食胎イ御座候ニ付 京伏見之魚屋 八百屋 鳥屋被為 召出  
御穿鑿被為 成候得共 何茂御注文之表差上申開仕候所ニ 其頃川魚毒ヲ飼等ト世間ニ風聞  
申成シ一節川魚之賣買留り申候御事

一 小出播磨守様大坂表御仕置被為 成候節 京橋北詰川魚商売之者共被為 召出僉儀被為 成  
候得共 其節者在ト所ト毎朝持参仕り面トニ賣買仕帰候ニ付御僉義難成 其時被為 仰  
出候ハ川魚商売之者共人数書上申候様ニ被為 仰付 則當所鯉鮒賣買之者共五拾五人書上  
差上申候所 播磨守様被為 仰出候者 川魚ニ毒ヲ飼ウ由風聞候間 五拾五人之内五人者年  
寄ニ定 毎朝市場江立出諸事吟味仕 左様之不思儀成ル肴持出候者於有之者 早ト召連可罷  
出旨被為 仰付市場之儀者御城中近邊ニ候得者急成ル肴為メ御用之向後市場

御赦免被為成候所 御奉行 竹新右衛門様 御兩人御檢使ニ而右年寄五人 其外川魚  
谷野利右衛門様 賣買之者共連判被為 仰付奉畏書上印形 御公儀様江差上難有奉存代ト市場立来り候御事

一元和元乙卯年 帳面御座候事

御城代松平下総守様御初入被為成其節者 尼崎 堺方沖之魚賣買往来仕 當所ニ肴御用承  
候者茂無御座候所ニ京橋北詰鮒市場之儀者先年

御赦免被為下候ニ付早速鯉鮒鰻川魚一切賣買仕り候所 御城中近キ市場ニ候得者川魚一切  
沖之魚共毎日 御膳肴差上可申候由被為 仰付 則肴

御用札被為下置候ニ付右帳面五拾人ヲ五組ニ仕 老組方二人宛番手替り之定沖之魚堺 尼  
崎飛脚到来仕 沖之魚 川魚共ニ御用肴奉り差上 御用残候肴者京橋市場ニ而賣拂右手替り  
之人數ヲ入替ヘ飛脚毎日到来之肴先年之通年寄立合吟味仕 御用肴毎日奉差上為冥加之  
御家老中様迄歳暮生鯉二献

年頭御礼 扇子老箱年寄以テ年番奉差上候御事

一元和五己未年 帳面御座候事

御城代内藤紀伊守様御初入被為成 御肴御用相續被為 仰付右年寄吟味仕奉差上候御事

一同五己未年町御奉行 久貝因幡守様 大坂御屋鋪江御初入被為成 右之通委細ニ以書付御窺  
嶋田越前守様

申上候得者

久貝因幡守様

京橋北詰鮒問屋五人 其外川魚賣買之者共被為 召出御吟味之上先年之通市場被為 仰付 御城中御用之肴鮒賣仲間年寄急度吟味仕差上可申候由被為 仰付奉難有存為冥加之 乍恐百貳拾年以來無滞両御番所様江年頭御礼申上候御事

一慶安二己丑年九月下旬 靄 白鳥賣買御法度被為 仰付京橋北詰鮒市場江者各別被為 仰付 靄 白鳥賣買候者有之候者其者ヲ留置御注進可申候由被為 仰付 依之鮒市場之者共書上連判可申候由被為仰付奉畏問屋組中書上印形 御公儀様へ奉差上候扣御座候御事

寛保元辛酉年四月十八日 京橋北詰鮒市場問屋

享和元年酉六月 相生西町卯 明和八辛卯十月 明和六己丑八月廿八日  
⑥ 鮒屋彦七㊦ ⑤ 奥田屋太郎平㊦ ④ 美濃屋忠七㊦ ③ 鮒屋忠七㊦  
天明五乙巳年九月

② 〔鮒屋〕五兵衛㊦ ① 鮒屋与右衛門  
鮒屋七左衛門㊦

寛政十年三月 天明三年卯八月 天明式年寅八月十六日  
⑤ 播磨屋半兵衛㊦ ④ 河内屋源右衛門㊦ ③ 廣屋小右衛門㊦  
② 〔鮒屋〕八郎兵衛㊦ ① 鮒屋吉右衛門㊦

〔貼紙〕 宝曆九年卯十二月十日鮒屋徳松方讓請 ② 総屋勘兵衛㊦

鮒屋長兵衛㊦

御奉行様

一慶長元丙申年

市場来歴書物 巻卷

一元和元乙卯年 帳面 巻冊

右者御城内御肴御用

〔貼紙〕 同五己未年御退城和列郡山御城主御初入

松平下総守様 御城代

〔貼紙〕 右御初入早目堺 尼崎御人足薪塩炭御肴人足ヲ勤

〔貼紙〕 一同五己未年 帳面 巻冊

(貼紙下)

同七辛酉年

右御城内御肴御用

(貼紙)

元和五己未年御初入 寛永三丙寅年迄八ヶ年之間

内藤紀伊守様

御城代

一 寛永拾五戊寅年

帳面壹冊

右ハ御城内御肴御用

(貼紙)

寛永三丙寅年御初入正保四年ニ至テ慶安元つちのへ子年迄二十三年之間

阿部備中守様

御城代

一 慶安二己丑年

帳面壹冊

但麁 白鳥御停止書上扣

(貼紙)

一 慶安元戊子年

右ハ御城内御用

稻垣撰津守様 御城代

一 慶安四辛卯年

右ハ寛永拾五年  
帳面之内

右ハ御城内御肴御用

(貼紙)

慶安二つちのと巳年初入承應元ミつのへ辰年迄四年之間

内藤豊前守様

御城代

一 承應元壬辰年

右ハ御城内御肴御用

水野出雲守様

御城代

一 承應二癸巳年

右ハ御城内御肴御用

内藤帯刀様

御城代

一 明歴二丙申年

右者御城内御肴御用

松平丹波守様

御城代

一 萬治元戊戌年

右者御城内御肴御用

水野出羽守様

御城代

町御奉行 藤堂伊豫守様  
小田切土佐守様  
一貞享三丙寅年 市場繪圖

御公儀様方補石水拔迄被為 成下其俣ニ而市立来り候御事

一禁裏様 川魚御用  
御注文老通

寶永元甲申年六月十二日

同 二年乙酉六月十八日

同御注文老通

右大坂京橋北詰鮒市場へ通路人京三條池口御町ニ而 佃屋庄兵衛殿

伊勢屋長左衛門殿

右之通不残 御公儀様江差上川魚御願上申候御事

乍恐御訴訟

京橋北詰鮒市場問屋共相手雑喉場町伊丹屋喜兵衛借家

美濃屋七兵衛

同 石津町天満屋三郎兵衛借家

佐野屋平兵衛

一私共儀京橋北詰市場ニ而元和年中方鯉鮒鰻一切川魚類右市場ニ而賣買仕渡世イ致来り候者共ニ御座候所ニ近頃雑喉場肴屋共 其外所ニ方入込於雑喉場濱中ニ新規之市ヲ立川魚賣買仕候ニ付 京橋へ罷出候獵師者問屋仕入ヲ不戻 雑喉場川魚賣買方へ立越へ仲買ハ問屋之引負不済 雑喉場近邊江引越シ川魚商買仕候ニ付 京橋市場次第ニ衰微仕私共渡世イ難成妻子共及喝命ニ迷惑至極仕候 依之乍恐御願奉申上候

通り

右奉申上候私共儀元和年中方京橋市場奉蒙御免難有奉存為冥加之御願申上 乍恐百貳拾年以来 両御番所様へ年頭御礼奉申上 代々川魚賣買仕来り候者共ニ御座候 乍恐御慈悲之上被為 聞召上右雑喉場沖之魚賣買之者共鯉鮒鰻其外一切川魚類賣買不申候様ニ被為仰付被下候者難有可奉存候 以上

寛保元辛酉年四月十八日

〔享和元年酉六月〕

相生西町

明和八年辛卯十月

〔⑥鮒屋彦七⑥〕

⑤奥田屋太郎平④

④美濃屋忠七⑥

天明五乙巳歳九月廿五申

明和六年巳丑八月廿八日

③鮒屋忠七⑥

②〔鮒屋〕五兵衛⑥

①鮒屋与右衛門⑥

鮒屋七左衛門<sup>㊤</sup>

〔寛政十年三月〕

天明三年卯八月

〔⑤播磨屋半兵衛<sup>㊤</sup>〕

④河内屋源右衛門<sup>㊤</sup>

③廣屋小右衛門<sup>㊤</sup>

天明式年寅八月十七日

②〔鮒屋〕八郎兵衛<sup>㊤</sup> ①鮒屋吉右衛門<sup>㊤</sup>

②総屋勘兵衛<sup>㊤</sup> ①鮒屋快順<sup>㊤</sup>

鮒屋長兵衛<sup>㊤</sup>

御奉行様

乍恐口上

一私共儀ハ京橋川魚市場御免之者共ニ御座候

一元和年中方之儀ハ先達而別紙書上奉差上御候御事

一貞享三丙寅年京橋市場、鋪石水抜き迄御公儀様方被為 成下其俣ニ而市立来り候御事

一最初之御願ニ美濃屋七兵衛 佐野屋平兵衛相手取書上候儀ハ別而右兩人ハ川魚問屋かまし

く被致候故相手取奉書上候御事

右之通近年於雜喉場右兩人ハ不及申其外雜喉場住宅之衆中并隣町方入込 海魚積合杯と

紛敷申川魚賣買仕私共商賣妨ケ被致候ニ付 往古方川魚一切引請問屋仕来り候京橋御免

之市場問屋共ハ不及申 未夕残り居申候仲買之者共迄京橋市場衰微仕今日之行方可致様

も無御座迷惑至極ニ奉存候 乍恐御慈悲之上被為 聞召上古来之通り京橋之外川魚問屋不

仕候様ニ奉願上候 以上

寛保元辛酉年五月十一日

〔享和元年酉六月〕

天明五歳己九月

明和八年辛卯十月

〔⑤鮒屋彦七<sup>㊤</sup>〕

④奥田屋太郎平<sup>㊤</sup>

③美濃屋忠七<sup>㊤</sup>

明和六巳丑年八月廿八日

②鮒屋忠七<sup>㊤</sup> ①鮒屋与右衛門<sup>㊤</sup>

鮒屋七左衛門<sup>㊤</sup>

〔寛政十年三月〕

天明三卯八月

〔⑤播磨屋半兵衛<sup>㊤</sup>〕

④河内屋源右衛門<sup>㊤</sup>

③廣屋小右衛門<sup>㊤</sup>

天明式年寅八月十七日

②〔鮒屋〕八郎兵衛<sup>㊤</sup> ①鮒屋吉右衛門<sup>㊤</sup>

鮒屋長兵衛<sup>㊤</sup>

②総屋勘兵衛<sup>㊤</sup> ①鮒屋<sup>〔貼紙〕</sup>「快順<sup>㊤</sup>」

〔貼紙下〕「彦兵衛㊦〔快順と同印〕」

御奉行様

京橋川魚私共中買之者共ニ御座候

一従古来京橋市場川魚中買仕渡世イ致来り候所ニ近年雜喉場ニ而諸方々参り候川魚引請賣買仕候ニ付京橋市場川魚すくなく罷成り問屋中不及申惣中買未と賣子共ニ至迄渡世難成迷惑千万ニ奉存候右問屋中先達而御願申上候通御慈悲之上被為聞召上奉願上候通被為仰付被下候者難有仕合可奉存候以上

寛保元辛酉年五月廿一日

惣中買五拾五人

山城屋太兵衛

鮒屋宇兵衛

鳥屋伊右衛門

鮒屋喜兵衛

木屋太郎兵衛

御奉行様

乍恐口上

一川魚之儀ニ付當四月十八日御願奉申上候ニ付雜喉場濱中今日被為召出鯉鮒鰻右三品雜喉場ニ而賣買之儀御差留メ被為成被下難有奉存候為御礼罷出申候以上

寛保元辛酉年五月廿一日

〔貼紙移動カ 貼付位置不明〕「同徳松代」

天明五年己九月

同西町

明和八年辛卯十月

⑥奥田屋太郎平圓

④美濃屋忠七㊦

明和六年丑八月廿八日

天明五巳年九月廿五申

③鮒屋忠七㊦

②鮒屋五兵衛㊦

①〔鮒屋〕与右衛門㊦

鮒屋七左衛門㊦

享和元年酉六月 寛政十年三月

天明三卯八月

⑥鮒屋彦七㊦

⑤播磨屋半兵衛㊦

④河内屋源右衛門㊦

③廣屋小右衛門㊦

②〔鮒屋〕〔八郎兵衛〕㊦

①鮒屋吉右衛門㊦

天明貳年寅八月十七日

②総屋勘兵衛㊦

①鮒屋快順圓

鮒屋長兵衛㊦



西五月廿一日

一右雜喉場兩人其外濱中住宅隣町之者迄被為 召出鯉鮒鰻賣買致間鋪候由急度御停止被為  
仰付 廿二日方雜喉場濱中ニ而右三品之分シ賣買止り申候 然ル上ハ京橋問屋衆中雜喉場  
表へ青願を被入吟味之段御尤ニ存候 乍恐御奉行 佐と美濃守様 京橋私共申上候趣 川魚  
松浦河内守様  
之儀一切ハ京橋被為 仰付被為 下候由申上候得者 佐と美濃守様御上意ヲ以被為 仰下候  
ハ川魚緒類多分物之殊ニ渡世つく之儀色くくと相談之上鯉鮒鰻右三品京橋へ申付候由御  
上意被下候ニ付 私申上候儀ハ御上意ヲ返シ申上候段恐多ク奉存候得共 右之者共外之川  
魚ニ取ませ又茂賣買可仕候由申上候へハ 佐と美濃守様被為 仰下候者 雜喉場其外隣町者  
共至迄向後賣買之儀有之候者可申来ル 召出シ急度申付ケとらすへしと被為 仰下 雜喉場  
其外之者共彼是申上候得共無御取上可罷立之段被為 仰付候砌り 地方御役人仁木右近  
右衛門様御座立 雜喉場者共鯉鮒鰻三品御差止之趣慥ニ承知可致由急度被為 仰渡候之段  
右廿一日兩方於御前被為 仰付候趣後とニ至り問屋心得違可有之候段 右委細書ス如件  
寛保元辛酉年五月廿二日 鮒屋吉左衛門

(一丁白紙)

御町奉行

佐と美濃守様  
松浦河内守様

(半丁白紙)

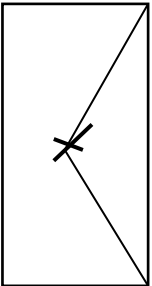
御吟味役人

御地方

由比可兵衛様  
八田五郎左衛門様  
吉田勝右衛門様  
仁木右近右衛門様

(一丁白紙)

元和五己未年之定



京橋北詰  
銀子壺両 鮎市場問屋中

ㄣ ㄊ ㄎ ㄨ ㄨ ㄨ

包ミ永サ五寸三分

右包紙之内ニ問屋五軒之名ヲ書

永サ一寸一分ニ上下三分半

熨斗

永サ五寸一分

京橋北詰  
銀子式匁 鮎市場問屋中

ㄣ ㄊ ㄎ ㄨ ㄨ ㄨ

右包紙之内ニ八問屋五軒之名書ニ不及

定 京橋北詰

年頭御禮 鮎市場問屋中

銀子壺匁 西御番所

銀子壺匁 東御番所

銀子式匁宛 御家老四人

銀子壺匁 天満御地方

銀子壺匁 右同断

銀子壺匁 右同断

銀子壺匁 右同断

銀子壺匁 天満御横目

銀子壺匁 右同断

右者年頭也

銀子壺匁 天満御地方

銀子壺匁 右同断

銀子壺匁 右同断

銀子壺匁 右同断

銀子壺匁 天満御横目

銀子壺匁 右同断

右者八朔也

右之通元和五乙未年方例年無滯年寄年番ヲ以御禮奉申上候御事

(半丁白紙)

寛保元年

同六月十二日九條上福嶋 下福嶋 其外不殘漁師九拾七人 御公儀様へ願ヲ差上候趣右之通川魚於雜喉場ニ賣買仕度由願差上候所ニ佐々美濃守様 被為 仰付候ハ 京橋問屋共ニ先達而右来ヲ以テ申付置候川魚右三品京橋へ持參可致候由被為 仰付御取上無御座候御事一同十二日□モ惣仲買不殘右同斷願差上候趣 是迄雜喉場問屋共ニ而仕送りヲ請渡世仕来り候所ニ此度右三品京橋問屋共へ被為 仰付 私共初而京橋賣買之場所へ罷出候共 京橋問屋仕送り不申及喝命候由願差上候得者佐々美濃守様 被為 仰付候ハ其儀ハ 相對ニ致せ京橋問屋共仕送りくれ不申候ハ、現銀ニ買渡世可致候由被為 仰付御取上ケ無御座候御事

寛保元辛酉年六月十二日

乍恐御訴訟

京橋北詰鮒市場問屋共ニ而御座候

相手

雜喉場町伊丹屋喜兵衛借屋

美濃屋七兵衛

初而  
川魚賣買出入

同 石津町天満屋三郎兵衛借屋

佐野屋平兵衛

同 薩磨堀中筋町薩摩屋清兵衛支配借屋

播磨屋弥兵衛

同 しきや町木屋吉兵衛借屋

鮒屋伊兵衛

一去ル五月廿一日川魚賣買之儀ニ付美濃屋七兵衛 佐野屋平兵衛 其外濱中雜喉場町 石津町右両町年寄丁人迄被為 御召出鯉鮒鰻右三品御停止被為 仰付被下京橋問屋共難有奉存候

一其後ニ至雜喉場濱中 其外所々ニ而市を立右三品不殘賣買仕候儀度々申上候茂恐多ク奉存私共方右賣買候場所へ人ヲ付ケ相止候様ニ申候得共一圓用イ不申下ニ而可仕様も無御座

迷惑至極ニ奉存候

一 右七兵衛儀雜喉場町於宅鯉鮒鰻右三品不殘賣買仕候御事

一 平兵衛儀江ノ子嶋於川嶋ニ諸方之仲買ト致方人市ヲ立水出候節ハ數艘之船をならべ於其上ニ鯉鮒鰻右三品不殘賣買仕候御事

一 弥兵衛儀 平兵衛同所ニ而市ヲ立居候得共唯今雜喉場町ニ出見世を企テ右三品不殘賣買仕候御事

一 右伊兵衛儀しきや町ニ而市ヲ立賣買仕候ニ付同所會所へ相斷候得ハ唯今ハ摂州西成郡池田喜八郎様御代官所下福嶋野田村領へ罷越 所ト之仲買ヲ致方人鯉鮒鰻三品不殘賣買仕候御事

右之通委細ニ見届ケ奉申上候 乍恐御慈悲之上右之衆中被為 御召出先達而被為 仰付被下候通り右三品市立賣買仕候儀相止メ候様ニ被為 仰付被下候者難有可奉存候 以上

寛保元年酉八月十八日

相生西町

鮒屋与右衛門<sup>㊤</sup>

同東町

鮒屋七左衛門<sup>㊤</sup>

寛政十年三月

享和元年酉六月 天明三年卯八月

⑤ 播磨屋半兵衛<sup>㊤</sup> ④ 鮒屋彦七<sup>㊤</sup> ③ 河内屋源右衛門<sup>㊤</sup>

② 廣屋小右衛門<sup>㊤</sup> ① 鮒屋吉右衛門<sup>㊤</sup>

天明式年寅八月十七日

鮒屋長兵衛<sup>㊤</sup>

鮒屋快順<sup>㊤</sup>

御奉行様

乍恐口上

京橋北詰市場問屋五人之者共

一 川魚賣買之儀ニ付當月十八日御訴訟奉申上候所ニ今日双方被為 御召出弥私共願之通ニ被為 仰付候下難有奉存為御礼罷出申候 以上

寛保元年酉八月廿一日

明和八年辛卯十月 相生南町

② 美濃屋忠七<sup>㊤</sup> ① 鮒屋与右衛門<sup>㊤</sup>

同東町

鮒屋七左衛門<sup>㊤</sup>

享和元年酉六月 寛政十年三月

天明三年卯八月

⑤ 鮒屋彦七<sup>㊤</sup> ④ 播磨屋半兵衛<sup>㊤</sup> ③ 河内屋源右衛門<sup>㊤</sup>

②廣屋小右衛門④ ①鮒屋吉右衛門④  
天明二寅年八月十七日

鮒屋快順④

鮒屋長兵衛④

御奉行様

乍恐御訴訟

京橋北詰鮒市場問屋共ニ而御座候

相手四ツ端平右衛門町近江屋十兵衛借屋

播磨屋喜右衛門

式度目  
川魚賣買之出入

同 池田喜八郎様御代官所撰州西成郡野田村百姓次郎右衛門借屋

野田屋平兵衛

同

漁師弥十郎

一右之衆中下福嶋於野田村領ニ人数ヲ集メ新規之市ヲ立京橋へ持出候鯉鮒鰻一切ヲ引請賣買仕候ニ付 京橋北詰問屋共ハ不及申賣子共末々ニ至迄迷惑千万ニ奉存候 乍恐御訴訟奉申上候御事

一右喜右衛門儀去ル八月廿一日迄右平兵衛同心シニ而江之子嶋於川嶋數艘之船をならべ右三品賣買仕候所 右八月十八日乍恐御訴訟奉申上候得ハ御慈悲之上右平兵衛被為 御召出三品賣買御停止被為 仰付被下難有奉存候 其後ニ至リ右兩人通ウ談以テ野田村百姓漁師をかたらひ人数を集メ右於場所ニ新規之市ヲ企テ 京橋へ積来リ候漁船之差留メ右三品其外一切ヲ引請 於野田村領ニ賣買世話代口錢右何茂割符仕候御事

一右野田屋平兵衛儀去ル五月廿一日 同八月廿一日及兩度ニ被為 御召出右三品御差止被為 仰付被下候 石津町佐野屋平兵衛与申者ニ而御座候 其節ハ石津町天満屋三郎兵衛借屋ニ罷有リ候所 右平兵衛石津町自分之宅其俣ニ而一家名前ニ仕替へ 下福嶋野田村領百姓次郎右衛門借屋へ罷越シ野田屋平兵衛与改メ 右喜右衛門同心ヲ以新規之市ヲ企テ平兵衛倅平吉鯉鮒鰻賣買支配ヲ為致 右平兵衛儀ハ雜喉場町賣買之場所へ毎朝共ニ立チ越へ 雜喉場邊往来仕候漁師をまねき 鯉鮒鰻三品右漁師ニ通ウ談ノ以テ野田村新市場へ送り鯉鮒鰻不残賣買仕候御事

一右漁師弥十郎儀野田村住所之衆中ニ御座候ニ付右委細相断候得者鯉鮒鰻川魚一切ニ不限賣買支配之儀ハ當所在領与申 市ハ手前之市ニ候得者脇方妨ケ之筋無之段我俣計被申一圓

取数へ不申 其上右弥重郎儀人相不相應ニ相見へ候ニ付 則所ニ而相尋候得ハ醫者 本名ワ  
主計 右弥十郎与改每朝右之市川魚賣買之場所へ立出 右賣買世話代口錢右之衆中毎日割  
符仕候御事

右之通度と御訴訟奉申上候所恐多ク奉存 野田村領庄屋年寄中迄右委細ニ相断申右新方  
之市場与申下ニ而相止給り候得与申入候得ハ 右之衆中我俣計被申下ニ而可仕様も無御座  
迷惑千万ニ奉存知候 乍恐御慈悲之上被為 聞召上右之衆中被為 御召出先達而被為  
仰付被下候通り市立テ賣買仕候儀相止候様ニ被為 仰付被下候者難有可奉存候 以上

寛保元年酉十二月廿二を貼紙訂正 八日

右之通十二月七日ニ追訴御願奉申上候御事

天明五己九月

②奥田屋太郎平圓

①鮒屋与右衛門圓

鮒屋七左衛門圓

享和元年酉六月 寛政十年三月

天明三卯八月

⑤鮒屋彦七圓

④播磨屋半兵衛圓

③河内屋源右衛門圓

②廣屋小右衛門

①鮒屋吉右衛門圓

天明式年寅八月廿七日

鮒屋長兵衛圓

鮒屋快順圓

乍恐口上

京橋北詰鮒市場問屋共

一四ツ橋平右衛門町近江屋十兵衛借屋播磨屋喜右衛門 撰州西成郡野田村百姓次郎右衛門  
借屋野田屋平兵衛 同所漁師弥十郎右三人相手取川魚商賣出入ニ付 當月七日御訴訟奉申  
上 同十二日御召被為 仰付候所 右平兵衛 弥十郎兩人病氣之由ヲ申罷出不申則病氣之御  
断奉申上候得者今日双方被為 成御召奉畏候 然ル處平右衛門町喜右衛門 野田村平兵衛  
右兩人亦と病氣与申罷出不申 病氣難落奉存候 右平右衛門町家主丁人并野田村庄屋年寄  
同相手弥十郎罷出居申候間 右之者共對決仕候様ニ被為 仰付被下候ハ、御慈悲難有可奉  
存候 以上

寛保元年酉十二月十八日

天明五己九月

②奥田屋太郎平圓

①鮒屋与右衛門圓

鮒屋七左衛門圓

享和元年西六月 寛政十年三月 天明三卯八月  
⑤ 鮒屋彦七<sup>㊦</sup> ④ はりま屋半兵衛<sup>㊦</sup> ③ 河内屋源右衛門<sup>㊦</sup>

② 廣屋小右衛門<sup>㊦</sup> ① 鮒屋吉右衛門<sup>㊦</sup>  
天明式年寅八月十七日

鮒屋長兵衛<sup>㊦</sup>

鮒屋快順<sup>㊦</sup>代多郎兵衛<sup>㊦</sup>

御奉行様

乍恐口上

京橋北詰鮒市場問屋共

一 池田喜八郎様御代官所撰州西成郡野田村ニ而川魚商賣大きやうなる新規之市ヲ立申儀私共難儀仕儀ニ御座候ニ付 右野田村平兵衛 弥十郎 四ッ橋平右衛門町喜右衛門右三人相手仕當月七日御願奉申上同十二日御右被為 仰付候所ニ相手弥十郎 平兵衛兩人病氣与申罷出不申 同十八日双方御召被為 成候得者亦ト平右衛門町喜右衛門 野田村平兵衛兩人病氣与申罷出不申 相手之者共ハ何角与事相延シ候様ニ仕迷惑千万ニ奉存候 右野田村ニ而新規之川魚市相立させ不申相止メ候様ニ庄屋 年寄所ト役人共へ被為 仰付被下候ハ、御慈悲難有可奉存候 以上

寛保元年西十二月十九日

天明五己九月

② 奥田屋太郎平<sup>㊦</sup> ① 鮒屋与右衛門<sup>㊦</sup>

鮒屋七左衛門<sup>㊦</sup>

享和元年西六月 寛政十年三月

天明三卯八月

④ 鮒屋彦七<sup>㊦</sup> ③ はりま屋半兵衛<sup>㊦</sup> ② 河内屋源右衛門<sup>㊦</sup>

① 鮒屋吉右衛門<sup>㊦</sup>

鮒屋長兵衛<sup>㊦</sup>

鮒屋快順<sup>㊦</sup>代多郎兵衛<sup>㊦</sup>

御奉行様

右之通十九日双方對決之上庄屋 年寄迄急度市がましき儀御差留メ被為 仰付候

乍恐口上

京橋北詰鮒市場問屋共

一 川魚之儀撰州西成郡野田村ニ而新規ニ市ヲ立申ニ付右野田村平兵衛 弥十郎并四ッ橋平右衛門町近江屋十兵衛借屋播磨屋喜右衛門右三人并庄屋 年寄相手取り 當月七日御願奉申

上昨十九日双方對決之上右川魚市御差留メ被為 成被下難有奉存為御礼罷出申候 以上  
寛保元年酉十二月廿日

鮎屋与右衛門<sup>㊤</sup>

鮎屋七左衛門<sup>㊤</sup>

享和元年酉六月 寛政十年三月

③ 鮎屋彦七<sup>㊤</sup> ② はりま屋半兵衛<sup>㊤</sup> ① 鮎屋吉右衛門<sup>㊤</sup>

鮎屋長兵衛<sup>㊤</sup>

鮎屋快順<sup>㊤</sup>代多郎兵衛<sup>㊤</sup>

御奉行様

乍恐口上

京橋北詰鮎市場問屋共

一池田喜八郎様御代官所撰州西成郡野田村ニ而川魚新規ニ市ヲ立申候ニ付 右野田村庄屋  
年寄并野田屋平兵衛 同弥十郎相手取り當月七日右市場相止候様ニ御願奉申上 同十九日  
双方對決之上右市場相止メ可申旨 右弥十郎 野田村庄屋 年寄共迄被為 仰付難有奉存罷  
歸り翌廿日朝見届ケニ参候所ニ 右平兵衛病氣与申十九日罷出不申者与同弥十郎頭取りニ  
而右場所ニ而数人集メ鯉鮎鰻一切川魚市專ニ相立申候ニ付 今朝亦と見届ケニ参候得共相  
止不申候故 所と庄屋へ参相尋候得者當主ヲ遣イ逢不申 庄屋 年寄迄茂御上意之趣承知不  
仕候与奉存候 私共可致様も無御座迷惑千万ニ奉存候 亦と御願奉申上候儀恐多ク奉存候  
得共御殿様之御上意ヲ不得用候族者共ニ御座候而中と私共之手わざニ難及者共ニ御座候  
故言上奉申上候 右市場儀者朝六ツ半時方五ツ半時分迄之川魚市商賣之儀ニ御座候間 右  
新規ニ市立候儀乍恐御見分奉願上候 右之趣御慈悲之上被為 聞召上御見分被為 仰付被  
下何とそ右市場相止候様ニ被為 成被下候者難有可奉存候 以上

寛保元年酉十二月廿一日

天明五己九月

② 奥田屋太郎平<sup>㊤</sup> ① 鮎屋与右衛門<sup>㊤</sup>

鮎屋七左衛門<sup>㊤</sup>

享和元年酉六月 寛政十年三月

④ 鮎屋彦七<sup>㊤</sup> ③ 播磨屋半兵衛<sup>㊤</sup> ② 河内屋源右衛門<sup>㊤</sup>

天明三卯八月

① 鮎屋吉右衛門<sup>㊤</sup>

鮎屋長兵衛<sup>㊤</sup>

鮎屋快順<sup>㊤</sup>代多郎兵衛<sup>㊤</sup>



御奉行様

乍恐口上

京橋北詰鮒市場問屋共

一池田喜八郎様御代官所撰州西成郡於野田村領三川魚賣買之儀二付當月廿一日御訴訟奉申  
上候所地方於御役所二私共願之通被為 仰付難有奉存 則為御礼罷出申候 以上

寛保元年酉十二月廿六日

天明五己九月

② 奥田屋太郎平圃 ① 鮒屋与右衛門

鮒屋七左衛門

享和元年酉六月 寛政十年三月

④ 鮒屋彦七 ③ 播磨屋半兵衛

天明三卯八月  
② 河内屋源右衛門

① 鮒屋吉右衛門

鮒屋長兵衛

鮒屋快順代多郎兵衛

御奉行様

由比可兵衛様

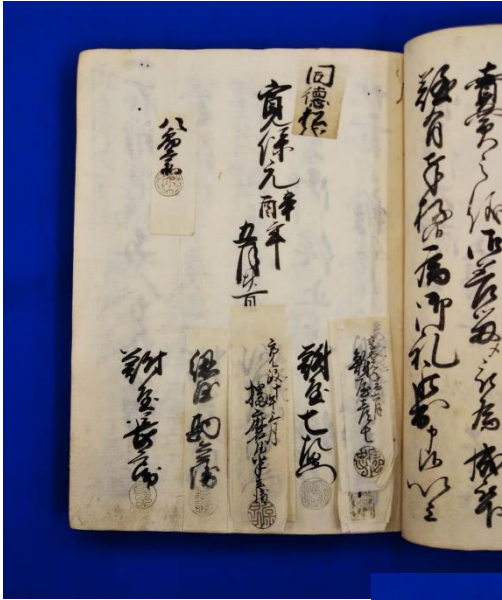
御地方

桑原信右衛門様

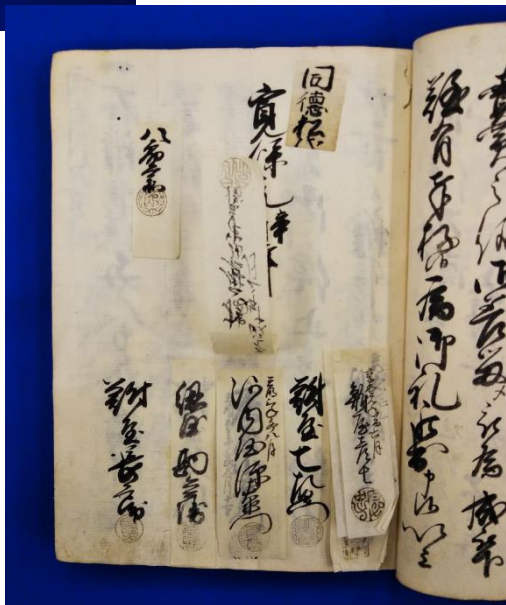
吉田勝右衛門様

仁木右近右衛門様

(裏表紙)「問屋仲」



▲ 貼り紙例 (1 枚目)



貼り紙例 (2 枚目) ▶

(二) 問屋定

〔表表紙〕「辛 寛保元歳

問屋定

西 五月吉日」

定

一 從 御公儀様被為 仰付候御法度之趣急度相守り可申候事  
一 御制札場江猥ニ諸道具掛持セ申間舗候毎朝問屋仲間方吟味可致候事  
一 於御江戸ニ御代と御法事被為 成候節殺生御停止被為 仰付候砌市場賣買堅ク止り可申事

一 御奉行様 年頭御札年番直ニ相勤メ難逃レ用事有之候者次之年番相勤可申候事  
右四ヶ條ノ趣急度相守り可申候 以上

寛保元辛酉年四月

鮎問屋仲間

七左衛門 團

同

与右衛門 團

同

吉右衛門 團

同

〔彦兵衛を貼紙訂正〕「快順 團」

同

長兵衛 團

〔貼紙①〕

宝曆八戊寅六月廿一日ニ譲リ鮎屋五兵衛トナル

〔貼紙② 鮎屋五兵衛に貼紙〕

天明五巳九月

奥田屋太郎平 團

〔貼紙①〕

宝曆九年己卯十二月十一日譲ル

鮎屋勘兵衛トナル

〔貼紙②〕

同

勘兵衛

〔貼紙〕

鮎屋五兵衛 團

天明三卯八月

〔貼紙〕

河内屋源右衛門 團

問屋仲間定

- 一 正月年玉之儀問屋一列ニ茶碗壹式其問屋荷主ニしゆんし一ツ二ツ五ツ十ヲ可遣渡ス候  
勿論右茶碗問屋中立合一所ニ調人ト入用之俵数ヲつもり荷主相應ニ可遣渡候事
- 一 籠之儀年々作り遣シ候事堅ク相止メ可申候 右籠之義池中衆中一兩日入用申来り候儀ハ各別之儀ニ候事
- 一金 銀 錢借用申来り候共堅借遣し申間敷候 是迄度と申合候得共猥ニ相成そん銀多分  
ンニ候 此上借用申来り候節ハ借出シ申間敷候 然所致好要(カ)内證ニ而借シ候所脇方相  
知レ候者右仲間寄合相談共ニ致間敷候事
- 一 問屋ニ付来り候荷主寛保元年五月廿一日之後外之問屋へ荷物付ケ候者 口錢其付来り候問  
屋へ水上勘定ヲ以是ヲ可取候 萬一問屋我俣申其心得無之候者月行司方急度取可渡ス候  
此上ニ茂無聞入候者(組合組頭へ相届ケ)を貼紙訂正「右仲間中へ相触レ」商売各別ニ可致候 右之趣  
我と共慥ニ致承知候 依之印形仍而如件
- 一 右此度願筋之魚漁師荷物口錢六分 古来より京橋市場定之通是可取候問屋漁師なれ合仕  
切之表ニ而ハ定之通内證ニ而口錢之くつし亦ハ酒肴ヲ以テまいない之入レ問屋ト之荷主ヲ  
引込 盜賊同前之仕わざ不届之儀ニ候得者 此度急度申談ンし候 此上ニ茂左様之族有之候  
者(組合組頭へ相届ケ)を貼紙訂正「仲間中へ相触」商売各別ニ可致候事
- 一 荷物中買之儀ハ 摂河泉其外何方之荷物ニ不限仲間ハ一同ニ三分古来之通是ヲ可引候後  
と至定之口錢之くつし仕欲之儀有之候ハ、右(組頭へ申渡シ)を貼紙訂正「仲間中へ相触レ」商売  
急度各別可致候事
- 一 飯料之儀米高下ニより其勘定相談相極可申候事
- 一 正月廿一日 九月十六日寄合勘定可致候 即入用帳面可致候事
- 一 はせ魚之儀問屋一列ニ可致候 みたりニ候得者不同候ニ付悪敷候 自今以後相定可申候事
- 一 三月二日 五月四日 七月十四日 九月八日 十二月卅日  
右市場止り可申候 其日之賈掛節季ニ寄不申候 名と家と之拂方延引ニ付問屋ニ過分損銀  
有之候事
- 一 盤寸方之儀慶長三戊戌年定之通此度相改候所急度相心得可被申候 右寸方書付ケ樽屋弥  
兵衛殿方へ相渡シ申候 後とニ至り損シ候節ハ右之方へ(相渡)を上書訂正「持參」可被致候以上  
右之條と古来之通相改候趣向後急度相勤可申候 依之問屋組中立合印形仍如件

寛保元年辛酉五月

〔享和元年酉六月〕

天明五巳九月

〔④ 鮎屋彦七<sup>㊦</sup>〕

③ 奥田屋太郎平<sup>㊦</sup>

② 鮎屋五兵衛<sup>㊦</sup>

① 鮎屋与右衛門<sup>㊦</sup>

鮎屋七左衛門<sup>㊦</sup>

〔寛政十年三月〕

天明三年卯八月

〔③ 播磨屋半兵衛<sup>㊦</sup>〕

② 河内屋源右衛門<sup>㊦</sup>

① 鮎屋吉右衛門<sup>㊦</sup>

② 総屋勘兵衛<sup>㊦</sup>

① 鮎屋〔彦兵衛〕を貼紙訂正〕「快順」<sup>㊦</sup>

鮎屋長兵衛<sup>㊦</sup>

盥寸方之事

一大盥 上口

指渡<sup>㊦</sup> 壹尺五寸<sup>鮎吉</sup> (店舗印)  
深サ 壹寸四分<sup>㊦</sup>

一小盥 上口

指渡<sup>㊦</sup> 壹尺三寸<sup>鮎吉</sup> (店舗印)  
深サ 壹寸<sup>㊦</sup>

一下盥 上口

指渡<sup>㊦</sup> 式尺三寸<sup>鮎吉</sup> (店舗印)  
深サ 五寸七分<sup>㊦</sup>

定

〔貼紙移動 貼付位置不明〕

野田村  
同徳松代判太郎右衛門

一 京橋北詰鮎市場之儀ハ右来歴之通り御免之市場ニ候所我々共先祖慶長元丙甲年撰州大坂市場之初メ其後元和元乙卯年城代御肴御用市場年寄年番ヲ以テ奉差上同五年乙未年當御世ニ大坂御初入町御奉行 久貝因幡守様 嶋田越前守様  
右来歴之趣御改被為 成下難有奉存為冥加之 乍恐百弍拾三年以来無滞兩御番所様へ年頭御礼奉申上代々子孫相統渡世来り 其後貞享三丙寅年京橋市場鋪石水拔迄從 御公儀様被為 成シ下其俣ニ而市立来り候御免之市場ニ候得者 此度右之趣以テ雜喉場表テ川魚賈買之儀御願申上候得者被為 聞召上御停止被為 下難有奉存候事

定

一 凡白銀百枚

右譲り料銀右之通相定置候得共其時節之品ニ方増シ減ハ本人之勝手次第ニ可仕候事 右之

外其譲り渡シ候町役人中

(貼紙)

年寄	金子百疋
丁代	白銀壹両
下役	同 三匁

(貼紙下)

	金壹両
	同式歩
	銀貳両

右之趣委細ニ可被承知致候事

定

一 右定之趣自今以後ニ至リ所持之間屋ヲ差入證文以テ銀子用ト之儀有之候節ハ問屋仲間ヘ相断相談ヲ以テ一別ニ印形頼 右一別印形有之候證文本紙与可定事

一 銀主之儀近所 他所ニ不限問屋仲間ヘ右之趣相届ケ其沙汰可被致候 若シ内證ニ而我俣ニ證文取渡し其後ニ及出入ニ候共問屋中定之外不存候事

一 顔見世之儀ハ右之外ニ白銀壹枚譲リ請候人より問屋仲間江是ヲ可被差出候 掛錢都合を以テ年々入用年頭八朔御礼銀 其外入用等ニ至迄其銀ヲ以テ是ヲ相勤可申候事 右之趣委細ニ致承知候 依之間屋中立合相定候趣仍如件

寛保元年酉五月

享和元年酉六月

天明五巳九月

④ 鮎屋彦七 ㊦ ③ 奥田屋太郎平 ㊦ ② 鮎屋五兵衛 ㊦ ① 鮎屋与右衛門 ㊦

鮎屋七左衛門 ㊦

天明三卯八月

② 河内屋源右衛門 ㊦ ① 鮎屋吉右衛門 ㊦

鮎屋長兵衛 ㊦

〔② 総屋勘兵衛 ㊦〕 ① 鮎屋快順 ㊦

(裏表紙)

〔鮎屋彦兵衛

同 七兵衛

同 長兵衛

同 与右衛門

同 吉右衛門 (㊦) 〕